

# 新たな観光振興財源により宮城県が目指すべき姿について

## 基本的な考え方について

- 宮城県においては、令和2年度をもって10年間の震災復興期間が終了し、復興後の次のステージに移行することとなる。
- これまでに世界中からいただいた御支援により復興した姿を、「観光」を通じて世界中の方々に見ていただくことが大切である。
- 「点から線、線から面」へ広がりのある「観光」の実現とともに、復興ツーリズムなどをはじめとした「みやぎ」らしい観光を推進していくことが求められている。
- これにより、交流人口を拡大し、地域が持続的に発展して、未来へと繋がっていくみやぎの観光の姿を目指すべきである。

## 新たな財源の使途について

これまで取り組んできたインバウンドの誘客をはじめとした観光振興施策を今後も切れ目なく、より一層充実・拡大するため、次の4つの分野を中心に財源を充当するのが適当と考えられる

- ①復興を遂げた「みやぎ」らしい体験・滞在型の観光資源の整備
- ②デジタルの加速化を踏まえた観光の推進とAI・IoT等を活用した観光産業の体制強化
- ③快適で満足度の高い旅行環境の提供
- ④東北のゲートウェイ機能の強化